

鳥海山の火山活動解説資料（平成 28 年 9 月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1～4）

上郷に設置している遠望カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

14 日に実施した現地調査では、前回（2013 年 9 月 6 日）と同様、新山及びその周辺に噴気や地熱域はみられませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 5）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 6、図 8）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

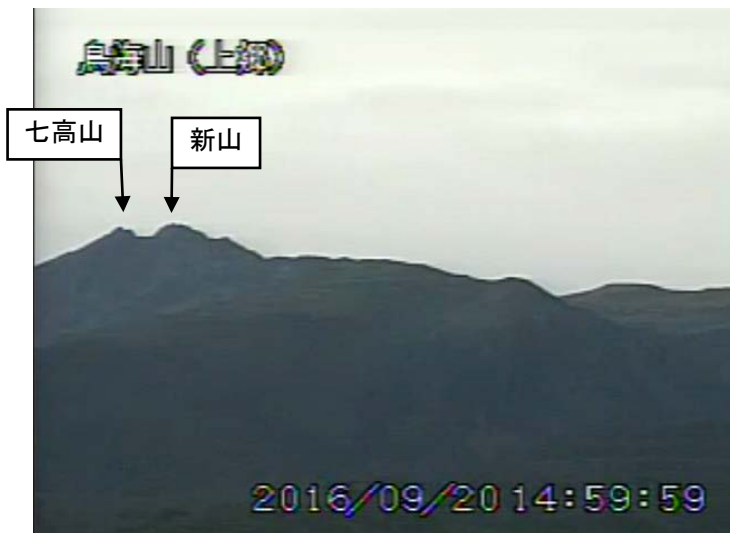


図 1 鳥海山 山頂周辺の状況（9 月 20 日）

- ・上郷（山頂の北西約 10km）に設置している遠望カメラの映像です。

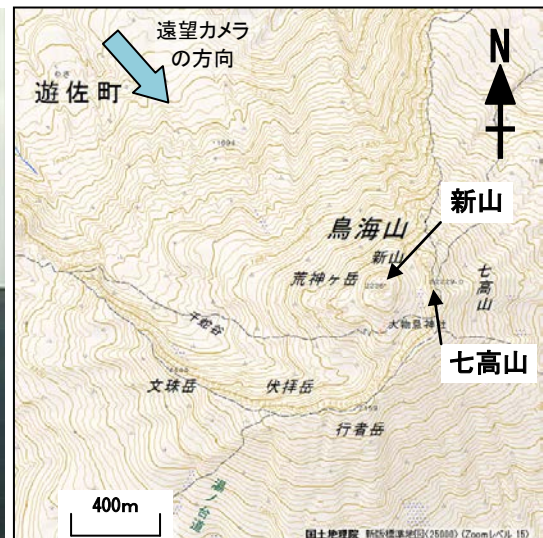


図 2 鳥海山 新山と七高山位置図

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成28年10月分）は平成28年11月9日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。



図3 鳥海山 可視画像と地表面温度分布撮影位置¹⁾

1) 赤外熱映像装置による観測。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

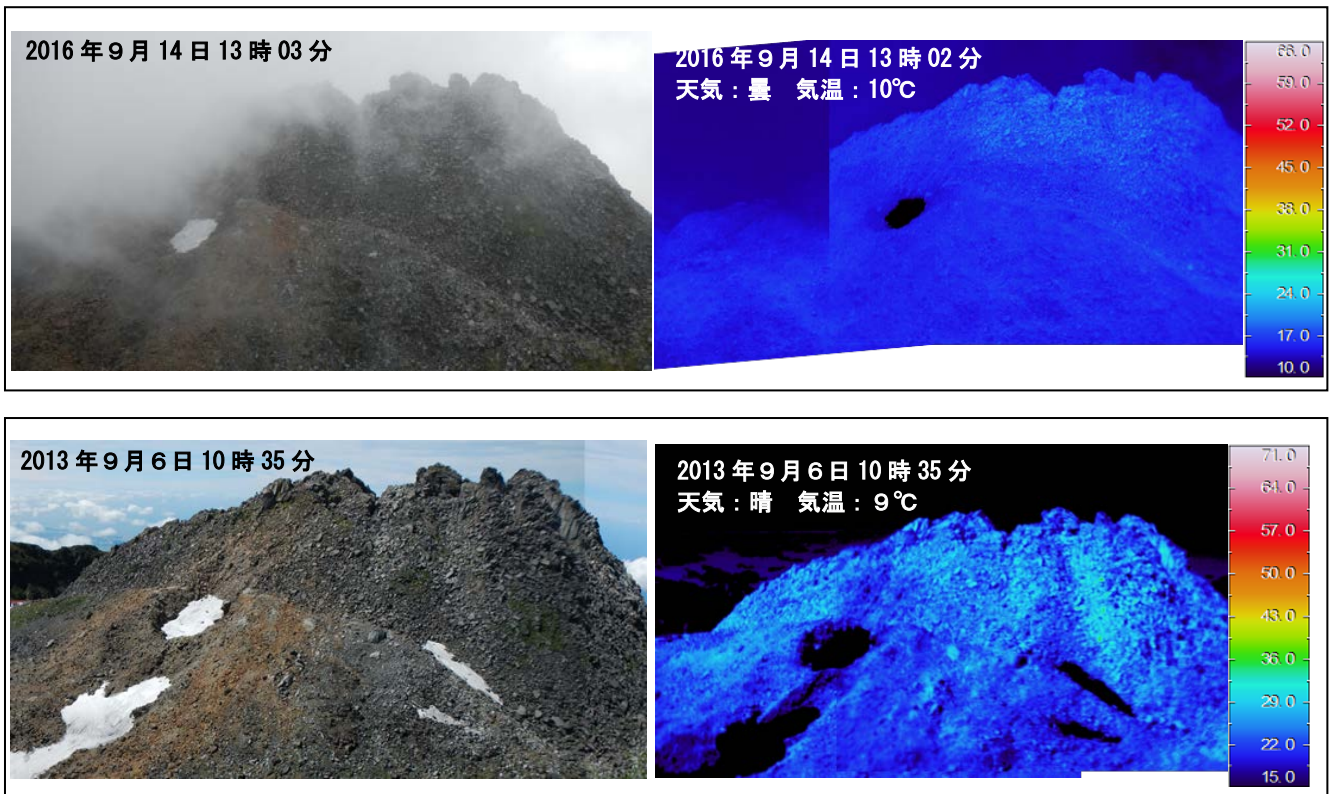


図4 鳥海山 七高山から撮影した新山の可視画像と地表面温度分布

・前回（2013年9月6日）と同様、噴気及び地熱域はみられませんでした。



図5 鳥海山 火山性地震の日別回数（2010年9月～2016年9月）

- ・ 灰色部分は欠測を表しています。
- ・ 観測開始以来、火山性地震は観測されていません。

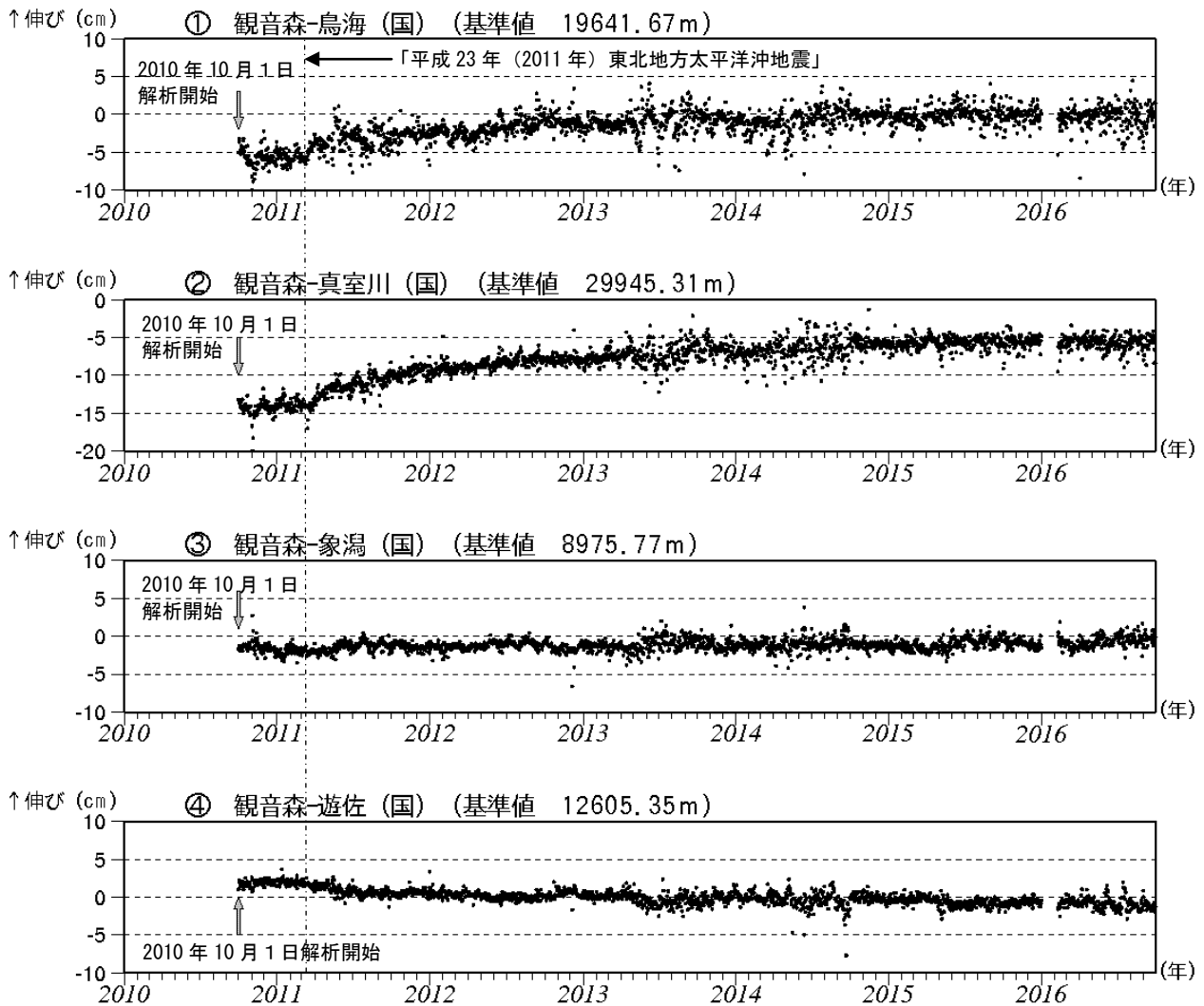


図6 鳥海山 GNSS²⁾ 基線長変化図（2010年10月～2016年9月）

- 2) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。
- ・ 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 - ・ ①～④は図8のGNSS基線①～④に対応しています。
 - ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
 - ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・ (国)は国土地理院の観測点を示します。

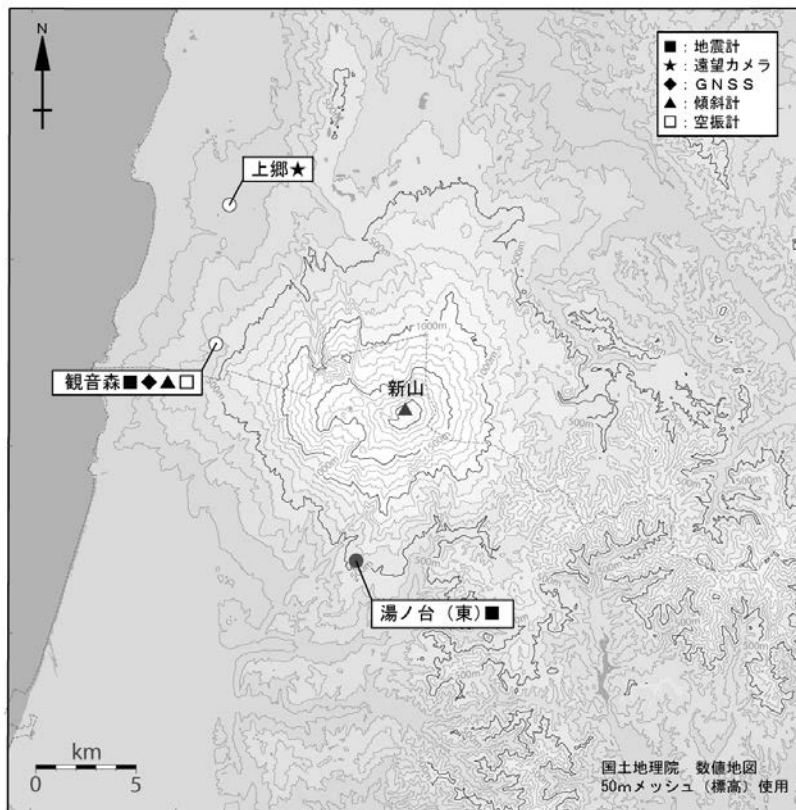


図7 鳥海山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東) : 東北大学

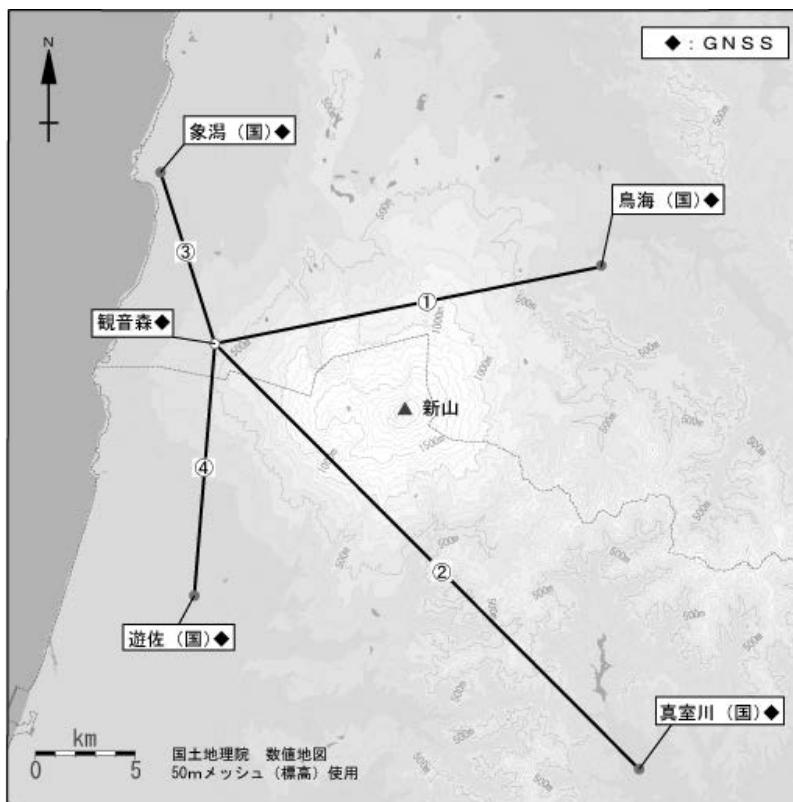


図8 鳥海山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院